

策定の視点

- ・ 「いのち輝くマグネット神奈川」の実現を科学技術の面から支える。
- ・ 現「大綱」に基づく施策の取組状況を踏まえ、社会や科学技術を取りまく状況の変化及び国の第5期科学技術基本計画における視点を取り入れる。
- ・ 神奈川県科学技術会議において専門的観点から議論いただくとともに、県民、市町村、大学、研究機関等の意見や提言を幅広く聴取する。

[全体構成]

|     |                |        |
|-----|----------------|--------|
| 第1章 | 基本目標及び計画期間     |        |
| 第2章 | 県の役割と施策の基本的な方向 |        |
| 第3章 | 科学技術政策推進機関の活動  |        |
| 第4章 | 施策例            | ⇒ 今後検討 |
| 第5章 | 施策の展開にあたって     |        |
| 参考  | 神奈川の科学技術の状況    |        |
|     | 附属資料           |        |

第1章 基本目標及び計画期間

1 基本目標

目標1 「経済のエンジンを回す」ことによる地域経済の活性化

これまでに蓄積された「知」を生かすとともに、オープンイノベーションによる共同研究など産学公の連携を図り、新たな「知」を創出することで、神奈川からイノベーションを創出し、地域経済を活性化させる取組みを強化する。

目標2 県民生活の質の向上の実現

誰もが健康で長生きできる社会の実現や自然災害への対応など、安全・安心でより良い生活環境づくりの実現や県民生活の質の向上のための課題解決に寄与する科学技術の取組みを推進する。

目標3 イノベーション創出を担う人材の輩出

科学技術が県民に支持されるよう、県民のニーズに応える情報発信を積極的に行う。また、科学技術に対する興味・関心のさらなる喚起を図るとともに、イノベーション創出を担う人材を育成する。

2 計画期間

2017（平成29）年度～2021（平成33）年度（5年間）

第2章 県の役割と施策の基本的な方向

1 県の役割

(1) 地域社会への貢献

- ・ 「科学技術」と「産業」との間をつなぐ  
(製品化、市場展開、研究者・技術者等の育成など)
- ・ 「科学技術」と「県民生活」との間をつなぐ  
(生活の質の向上、情報発信など)

⑧ (2) 国内外への貢献

わが国トップクラスの知的資源及び産業の集積を生かし、科学技術活動の発展を促進する役割を担い、国全体ひいては、世界の科学技術に貢献する。  
(神奈川発の有望なシーズの展開、次世代の科学技術を担う人材の育成など)

2 施策の基本的な方向

(1) 「経済のエンジンを回す」科学技術活動の展開

- ア 知的創造活動の展開とオープンイノベーションによる共同研究の推進
- イ 中小企業支援などによる研究成果の産業への活用
- ウ 市場展開を見据えた産業支援
- ⑧ エ 成長産業の創出・育成支援に向けた研究成果の展開  
3つの特区を活用し、産学公の連携による研究成果の実用化などにより、最先端医療、未病、ロボット、エネルギー産業など成長産業の創出・育成を推進する。

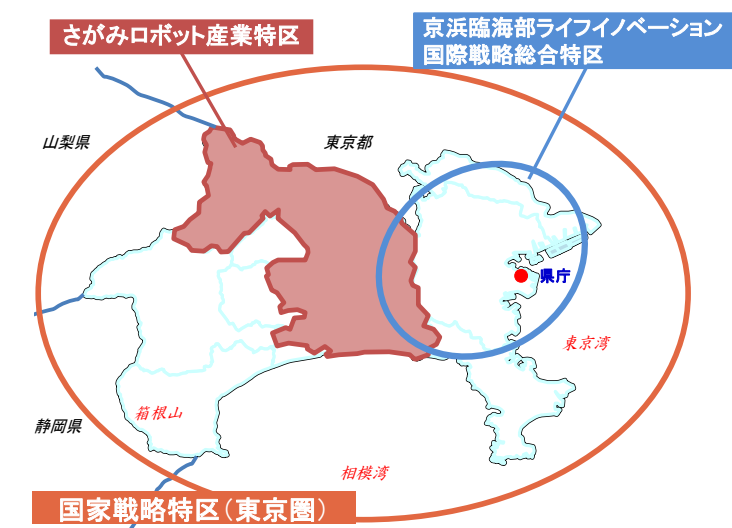
(2) 安全・安心の確保など生活の質の向上を実現する科学技術活動の展開

- ア 健康長寿社会実現に寄与する科学技術活動の展開
- イ 自然災害等へ対応する研究・モニタリング活動の推進
- ウ 自然・生活環境の保全など県民生活につながる活動の推進

(3) 科学技術の情報発信とイノベーション創出を担う人材の育成

- ア 科学技術に係る活動等の情報発信
- イ 子どもの科学技術に対する興味・関心の喚起
- ウ イノベーションを生み出す人材の育成

【3つの特区】



## 第3章 科学技術政策推進機関の活動

### 1 重点的な研究活動の展開

#### (1) 基本原則

各県試験研究機関等は、それぞれの目的に沿った研究を推進するとともに、次の基本原則に則り、重点的な研究活動を展開する。

##### ア 県の政策の方向性に沿った研究

- ・ ヘルスケア・ニューフロンティアの推進
- ・ ロボットと共生する社会の実現
- ・ スマートエネルギー計画
- ・ グローバル戦略の推進

##### イ 研究シーズだけではなく、産業や県民生活のニーズに基づいた研究

#### (2) 重点研究目標

- ① 成長産業を創出・育成するための技術の向上に資する研究（最先端医療、未病、ロボット、エネルギー等）
- ② 自然災害へ対応するための技術やシステムの向上に資する研究（防災、減災等）

### 2 各機関の活動

#### (1) 県試験研究機関の活動

県試験研究機関は、研究力の向上など機能強化を図りながら、地域課題の把握や解決に向けた研究やモニタリング・普及・実証活動などを行う。また、県民に開かれた機関として、継続的な情報発信や情報共有に係る活動などを行い、産業や県民生活に貢献する活動を推進する。

#### ② (2) 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所の活動

県内でのイノベーション創出を支援するため、基礎研究から事業化までの一貫支援を行う「研究開発」「技術支援」「事業化支援」の3つの柱で事業を推進する。

また、中小企業等の研究開発力の向上を図る「人材育成」や、新たな支援機関が持つネットワークを活用した大学と企業とのコーディネートなどを行う「連携交流」に取り組む。

## 第4章 施策例

今後検討

## 第5章 施策の展開にあたって

### 1 研究機関や他の自治体、国等との連携とネットワークの構築

- ② グローバル化の観点（世界市場を見据えた研究、成果の展開）

### 2 施策の進行管理

- ② 指標の設定

## 【参考】 神奈川の科学技術の状況

### 1 神奈川の特徴

#### (1) 先進的な取り組み

#### (2) 知的資源の集積

科学技術の原動力となる知的資源の集積が全国比較でも上位

- ・ 県内に在住する研究者は約1.7万人（全国第1位）、技術者は約30万人（同2位）
- ・ 研究所は約440ヶ所（同2位） など

#### (3) 活発な産業活動

神奈川には、科学技術の成果を生かす産業の集積があり、活発な産業活動を展開

- ・ 本県の工業製品出荷額は約17兆円（全国第2位）
- ・ 県内総生産は約31兆円（同4位） など

#### (4) 3つの特区

- ・ 京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区
- ・ さがみロボット産業特区
- ・ 国家戦略特区（東京圏）

### 2 科学技術を取りまく社会環境の変化への対応

- ◆ 人口減少社会の到来
- ◆ グローバル化とICT（情報通信技術）の進展
- ◆ 産業構造の転換
- ◆ 箱根山など自然災害の発生、環境問題
- ◆ 子どもの理科離れ

## 参考

ヘルスケア・ニューフロンティア

「未病の改善」と「最先端医療・最新技術の追求」という2つのアプローチを融合することにより、健康寿命日本一と新たな市場・産業の創出を目指す神奈川の新たな政策

